

# I 平成29年度 札幌市子ども議会次第

平成29年12月27日（水曜日）午後1時00分～

1. 開 会
2. 札幌市長・札幌市議会議長・副議長入場
3. 札幌市議会議長挨拶
4. 平成29年度札幌市子ども議会の概要説明
5. 各委員会の提案と答弁
  - ・ <sup>イツツ モア ウイズ ビー</sup>It's more with B委員会
  - ・ モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会
  - ・ <sup>セグ ウェイ</sup>SEG WAY委員会
  - ・ エネルギー、直視は辛い役に立つ委員会
- ＜休 憩＞
6. 意見交換
7. 平成29年度札幌市子ども議会提案書手交
8. 札幌市長挨拶
9. 札幌市議会副議長講評
10. 閉 会



## Ⅱ 子ども議員・サポーター及び本会議出席者名簿

### 子ども議員及びサポーター（49名）

#### It's more with B 委員会（10名）

|    |    |    |      |
|----|----|----|------|
| 白戸 | 遥香 | 議員 | 小学5年 |
| 野村 | 拓杜 | 議員 | 小学6年 |
| 桜庭 | 舞夕 | 議員 | 小学6年 |
| 田代 | 桃茄 | 議員 | 小学6年 |
| 猿倉 | 花凜 | 議員 | 小学6年 |

|    |     |    |      |
|----|-----|----|------|
| 藤林 | 亮太  | 議員 | 中学2年 |
| 世村 | 健太  | 議員 | 中学3年 |
| 爲田 | 柚杏  | 議員 | 中学3年 |
| 加藤 | 優斗  | 議員 | 中学3年 |
| 松田 | 翔之祐 | 議員 | 高校2年 |

#### サポーター（3名）

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 堀井 | 桃花 | 佐竹 | 祐季 | 館岡 | 佑人 |
|----|----|----|----|----|----|

#### モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会（11名）

|    |    |    |      |
|----|----|----|------|
| 松本 | 桃佳 | 議員 | 小学5年 |
| 渥美 | 柚羽 | 議員 | 小学5年 |
| 遠藤 | 朱莉 | 議員 | 小学6年 |
| 小松 | 洋翔 | 議員 | 小学6年 |
| 海野 | 雅心 | 議員 | 小学6年 |
| 菅原 | 考悟 | 議員 | 中学2年 |

|     |    |    |      |
|-----|----|----|------|
| 大城  | 萩乃 | 議員 | 中学3年 |
| 吉川  | すず | 議員 | 中学3年 |
| 中村  | 彩乃 | 議員 | 中学3年 |
| 福永  | 遥  | 議員 | 高校1年 |
| 佐々木 | 花鈴 | 議員 | 高校2年 |

#### サポーター（3名）

|    |   |    |    |    |    |
|----|---|----|----|----|----|
| 赤石 | 蓮 | 阿部 | 七海 | 児玉 | 仁美 |
|----|---|----|----|----|----|

#### SEG WAY委員会（9名）

|     |    |    |      |
|-----|----|----|------|
| 小田島 | 武尊 | 議員 | 小学5年 |
| 高橋  | 一颯 | 議員 | 小学5年 |
| 田中  | 心斗 | 議員 | 小学5年 |
| 京藤  | 乃愛 | 議員 | 小学6年 |
| 高橋  | 実生 | 議員 | 小学6年 |

|    |    |    |      |
|----|----|----|------|
| 高松 | 杏都 | 議員 | 中学1年 |
| 國井 | 祐寧 | 議員 | 中学1年 |
| 京藤 | 凜  | 議員 | 中学3年 |
| 蝦名 | 陸  | 議員 | 高校1年 |

#### サポーター（3名）

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 平木 | 克弥 | 竹内 | 智香 | 川崎 | 静夏 |
|----|----|----|----|----|----|

#### エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会（8名）

|    |     |    |      |
|----|-----|----|------|
| 國分 | 咲楽砂 | 議員 | 小学5年 |
| 行方 | 大智  | 議員 | 小学5年 |
| 巽  | 佑羽  | 議員 | 小学5年 |
| 石井 | 里実  | 議員 | 小学6年 |

|    |    |    |      |
|----|----|----|------|
| 林  | 妃華 | 議員 | 小学6年 |
| 真部 | 有紀 | 議員 | 中学2年 |
| 鈴木 | 絢音 | 議員 | 中学3年 |
| 工藤 | 雄太 | 議員 | 高校3年 |

#### サポーター（2名）

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 日詰 | 彩夏 | 前田 | 夢生 |
|----|----|----|----|

---

## 出席した札幌市の職員

|      |                        |                        |          |                        |                        |
|------|------------------------|------------------------|----------|------------------------|------------------------|
| 札幌市長 | 秋元 <small>あきもと</small> | 克広 <small>かつひろ</small> | 危機管理対策室長 | 中塚 <small>なかつか</small> | 宏隆 <small>ひろたか</small> |
| 副市長  | 岸 <small>きし</small>    | 光右 <small>こうゆう</small> | 子ども未来局長  | 可児 <small>かにか</small>  | 敏章 <small>としあき</small> |
| 教育長  | 長岡 <small>ながおか</small> | 豊彦 <small>とよひこ</small> | 環境局長     | 三井 <small>みつい</small>  | 一敏 <small>かずとし</small> |
| 教育委員 | 阿部 <small>あべ</small>   | 夕子 <small>ゆうこ</small>  |          |                        |                        |
| 教育委員 | 佐藤 <small>さとう</small>  | 淳 <small>じゆん</small>   |          |                        |                        |
| 教育委員 | 長田 <small>ながた</small>  | 正寛 <small>まさひろ</small> |          |                        |                        |
| 教育委員 | 石井 <small>いしい</small>  | 知子 <small>ちこ</small>   |          |                        |                        |

---

## 列席者

|         |                       |                        |          |                       |                      |
|---------|-----------------------|------------------------|----------|-----------------------|----------------------|
| 札幌市議会議長 | 山田 <small>やまだ</small> | 一仁 <small>かずひと</small> | 札幌市議会副議長 | 三宅 <small>みやけ</small> | 由美 <small>ゆみ</small> |
|---------|-----------------------|------------------------|----------|-----------------------|----------------------|

---

## Ⅲ 本会議録

午後 1 時00分開会

### 1. 開 会

○佐々木花鈴議長 皆さん、こんにちは。

これから、平成29年度札幌市子ども議会を開会します。

私は、議長を務めます佐々木花鈴です。よろしくお願いいたします。



### 2. 札幌市長・札幌市議会議長・副議長入場

○佐々木花鈴議長 初めに、秋元市長さんと、いつもこの議場で議長、副議長を務めておられる札幌市議会の山田議長さん、三宅副議長さんを拍手でお迎えしたいと思います。

〔秋元市長、山田議長、三宅副議長入場〕

○蝦名陸副議長 私は、副議長を務めます蝦名陸です。



本日は、私たち子ども議員が考えたまちづくりについての提案を、秋元市長さん、山田議長さんをはじめ、提案に関係するお仕事をされている市役所の職員の皆さん、傍聴に来てくださっている方々に聞いてもらえることをとてもうれしく思います。これから、私たちが考えた提案を発表しますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

### 3. 札幌市議会議長挨拶

○佐々木花鈴議長 ここで、札幌市議会の山田議長さんからご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○山田一仁札幌市議会議長 ただいまご紹介いただきました札幌市議会議長の山田一仁でございます。

そして、皆さんから見ますと左側に座っておられる方が三宅副議長さんでございます。後で、副議長さんから講評をさせていただくことになるかと思いますが。

改めまして、札幌市議会本会議場によろこそおいでいただきました。

聞くとところによりますと、皆さん方は、今日の議会のために9月からいろいろな勉強をされてきたということでございます。この本会議場で、皆さん方が勉強したことを大いに議論



していただき、いろいろな意見を述べていただきたいと思います。

今日は、札幌市から市長、副市長をはじめ、幹部の皆さんが出席しております。皆さん方のいろいろな疑問や提言、さまざまな問題に対して、市長が、きめ細かに、わかりやすく、きちんと説明や答弁をしてくれると思いますので、皆さんの今日の議論に大きな期待をしているところであります。

私たち議員も、１年間、この本会議場の皆さん方が座っているところに座り、いろいろな議論しております。私たちも、この196万人の札幌市民のために、どうしたら札幌がもっともっとよくなるか、市民の皆さんにどうしたら喜んでもらえるか、どうしたら住みよいまちになるかということをこの議場で議論しております。

今は、冬になって、雪の問題も議論しています。どう除雪したらいいか、どのくらいお金をかけたら皆さんがもっと喜んでくれるかとか、夏になると公園や道路、学校、そして老人の福祉問題なども議論しています。今日は、皆さん方もここで大いに議論をしていただきたいなと期待しております。

そしてまた、もう一つ大きな期待があります。ぜひとも、この皆さんの中から、いずれ大人になったら札幌市議会議員に立候補していただきたい。いや、市議会議員では満足できなかったら、いつかは、私が、僕が市長になってやるぞという気持ちでこれから頑張っていたきたいと思います。いつか、皆さん方が、この札幌のために頑張っていただけることを心から願っている次第であります。

最後になりますが、本日、ここにお集まりの保護者の皆さん、そして、子どもたちをサポートしてくれた学生の皆さん、関係者の皆さん、本当にご苦労さまでございました。私からも、心から感謝を申し上げます。子どもたちが立派にやってくれると思いますので、期待して見ていただければと思います。私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございました。

## **4. 平成29年度札幌市子ども議会の概要説明**

**○佐々木花鈴議長** それでは、蝦名副議長から、子ども議会の概要について説明します。

**○蝦名陸副議長** 私たち子どもには、自分に関わることに参加し、意見を表明する権利があります。この意見表明権は、「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」において、子どもの大切な権利の一つとして定められています。

子ども議会は、小学5年生から高校3年生までの子どもが、札幌のまちづくりについて学びながら、意見表明権の理念に基づき、札幌市の一員としてまちづくりの提案をするものです。

私たち子ども議員は、4つの委員会に分かれて、今年の9月からこれまで5回にわたり、まちづくりに関するテーマについて話し合いを行ってきました。委員会活動では、市役所の職員の方との勉強会をしたり、意見を出し合ったりして、子どもといえども、本物の議員として、自分たちが住むまちをよりよくするためにはどうすればよいかを考え、提案をつくりました。

本日は、私たちの提案に対して、秋元市長さんをはじめ、市役所の皆さんから答弁をしていただき、まちづくりについて意見交換を行います。私たちの提案や意見が、今後の札幌のまちづくりに生かされることを願っています。

## 5. 各委員会の提案と答弁

○佐々木花鈴議長 それでは、最初に各委員会の提案発表を始めます。

提案を発表するときに、各委員会が作成したポスターを議場の中でご紹介しますが、お手元の資料にも写真がありますので、そちらもご覧ください。

最初は、<sup>イツ ツ モア ウイズ ビー</sup>It's more with B委員会の提案です。<sup>イツ ツ モア ウイズ ビー</sup>It's more with B委員会の皆さん、よろしくお願いします。

<sup>イツ ツ モア ウイズ ビー</sup>[It's more with B委員会子ども議員登壇]

### ①<sup>イツ ツ モア ウイズ ビー</sup>It's more with B委員会

○野村拓杜議員 こんにちは。<sup>イツ ツ モア ウイズ ビー</sup>It's more with B委員会です。

委員会名の由来は、「It's more」と「イツモ」をかけ、「more」、つまりこれまで以上に防災を意識してもらいたいという考えから、このような委員会名にしました。「with B」は、今年大流行したブルゾンちえみさんのネタとかけていて、「B」は防災（Bousai）のBです。



○白戸遥香議員 私たちは、自分と家族の命を災害から守るために、普段から家や地域でどのように備えたらよいのかを話し合いました。

危機管理対策室の職員の方との勉強会では、札幌市が災害に備えて冊子を作成したり、各避難所に備蓄物資を置いたりしていることなどを知りました。



**○桜庭舞夕議員** 私たちは勉強会を通じて、防災の重要性はわかっているつもりでも、実際には行動に移していないということに気がつきました。そこで、災害が発生したときにパニックに陥らないよう、日頃から家族とよく話し合うべきだと思います。その中でも、家族で決めておくことと、家族で考えておくことの二つがあると考えました。

**○田代桃茄議員** 家族で決めておくことの中には、例えば誰が何をするかという役割分担や、集合場所などがあります。災害が発生すれば、誰もが混乱し、何をしたらよいのかわからなくなってしまうです。また、電話回線が混雑するので、連絡も取り合いにくくなってしまいます。そのため、家族で事前に決めておくことが重要となるのです。

**○猿倉花凜議員** 家族で考えておくことの中には、例えば第一にどのような行動をとるべきか、という順番や、家に自分一人だった場合にどうするかなどがあります。災害が発生するのはどのようなときかわかりません。一切の情報がなかったり、家族がいなかったりすることも十分に考えられます。そのため、事前に家族でよく考えておくことも重要となるのです。

**○藤林亮太議員** このように家族で話し合うことで、私たち子どもが防災を意識することになるだけではなく、家族も同時に意識することになり、習慣的に防災意識が持てるようになるのではないのでしょうか。

実際に私たちが家族で話し合ってみたところ、自宅で家族がそろっているときに災害が発生した場合のことは考えていても、一人のときや、自宅以外で発生した場合のことまでは考えていませんでした。

**○笹村健太議員** これらのことから、多くの人は、防災意識が低いのが現状だと考えました。例えば、最近はＪアラートが幾度か鳴っていますが、一度目はもちろん驚いたにも関わらず、二度目以降は、「ああ、またか」というように、慣れてしまったと思います。私たちは札幌市民全員に防災意識を持ってほしいという意見で一致しましたが、札幌市民全員の意識を一度に変えることはまず不可能に近いでしょう。

**○爲田柚杏議員** そこで、私たちは、子どもの防災意識が変化し、家族に伝わっていくことで札幌市民全員の意識が変化すると考え、札幌市に、市内の小中高校に「防災教育改革」を行ってもらうことを提案します。

「防災教育改革」では、防災について家族で話し合うことを宿題にしたり、校内放送で呼びかけを行ったりと、子どもが今よりもっと防災について考えられるような内容が含まれています。詳しくは資料をご覧ください。

**○加藤木優斗議員** また、学校単位で教育を行うことには、ほかに二つのメリットがありま

す。それは、「災害発生時に動きやすいこと」と、「将来まで覚えていること」です。

前者のように考えたのは、子どもは学校にいる時間がとても長いからです。家にいる時間より長いことも珍しくないでしょう。なぜ避難訓練を行っているかを考えればわかりますが、学校という大きな単位で全校生徒が動くことで、災害が発生した際に、よりスムーズに動けると考えたのです。

**○松田翔之祐議員** 後者のように考えたのは、そもそも記憶力は大人よりも子どものほうがよく、定着する可能性が高いからです。今、私たち子どもは学校で避難訓練などを行っていますが、高校を卒業すると避難訓練の機会もほとんどなくなり、大人になればなおさらそのような機会はないと思います。そのため、子どものうちの教育により防災意識の定着を図ることはとても重要かつ効果的で、未来の防災にもつながっていくことになると思ったのです。

以上のような取組によって、多くの人々の防災意識が高まり、もし災害が発生した場合でも、自分の命だけでなく、家族の命も守り、人身被害ゼロである防災に強い札幌になってほしいと思います。

以上で、<sup>イ ツ ツ</sup> <sup>モ ア</sup> <sup>ウ イ ズ</sup> <sup>ビー</sup> It's more with B 委員会の提案を終わります。

<sup>イ ツ ツ</sup> <sup>モ ア</sup> <sup>ウ イ ズ</sup> <sup>ビー</sup> [It's more with B 委員会子ども議員降壇]

**○佐々木花鈴議長** ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

**○秋元克広市長** 今、<sup>イ ツ ツ</sup> <sup>モ ア</sup> <sup>ウ イ ズ</sup> <sup>ビー</sup> It's more with B 委員会の皆さんから、防災に関してのご提案をいただきました。

一つは家族での話し合い、もう一つは防災教育改革という二つの提案をいただきました。二つとも、非常に素晴らしい提案でした。ありがとうございます。

皆さん方が事前に勉強した中から、家族で話し合うことの重要性というお話がありました。自然災害を含めて、災害は非常に多くなってきておりますが、これを事前に防ぐことは難しいです。ですから、災害があったときに、いかに被害を少なくするような行動をとるかということが重要になります。

災害が起きたときに、それぞれがどういう行動をとったらよいかということについて、皆さんから提案があったように、家族の役割分担や連絡の方法などを事前に決めておくということは、本当に重要なことだと思います。それから、家族が一緒にいるときばかりではありませんので、それぞれが別々の行動をしているときでも、どう行動するのかということも事前に決めてイメージしておくことも、非常に大切なことだと思います。

そして、防災教育の中で、こういったことをどんどん広めていったらどうかという提案で





あります。皆さんが、学校で防災のことを学んで、家庭に帰ってそのことを家族の皆さんと話し合うことで、どういうことを事前に決めておけばよいのかということを広めていく、そして家族以外の方にも伝えていくということが本当に重要だと思います。

今、全国的にも、学校教育の中で防災意識を高めていこうということで、先進的に取り組んでいるところがたくさんあります。私たち札幌市もそういったところからしっかりと学んで、子どもたちの発想の中から、家族、そして多くの人の防災意識を高めていければと思います。

皆さんからの提案は、すぐに取り入れてやっていけると思っております。ありがとうございます。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございます。

続きまして、モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の提案です。モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の皆さん、よろしくお願いします。

〔モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会子ども議員登壇〕

## **②モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会**

**○松本桃佳議員** こんにちは。モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会です。

私たちの委員会名は、今年話題になった映画「打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？」をもじったものです。

委員会名には、防災を内から見る、つまり自分のこととしてとらえ、日頃から考えるのか、それとも外から見る、つまり自分とは無関係な問題として考えないのかという意味があり、みんなに日頃から防災のことを考えてほしいという願いを込めました。



**○渥美柚羽議員** 私たちは、災害から自分と家族の命が守れるように、災害が起きたらどうしたらよいかについて話し合いました。

危機管理対策室の職員の方との勉強会で、災害とは、自然の変化によって、自分たちの生活に支障が出てしまうことだと知りました。また、過去に起きた災害の話を聞いて、災害が起こったときには、まず自分自身を守ることが大切だと強く思いました。

**○遠藤朱莉議員** そして、いざ災害が起きたときに、適切な判断をして生き抜くためには、知識だけでなく、日頃からの訓練が必要だということも感じました。

しかし、私たちの委員会で話し合ったところ、避難所への避難経路について知らないという意見や、避難訓練にあまり真剣に取り組んでいない友達が多いなどの意見が出ました。

**○小松洋翔議員** その原因としては、災害を自分には関係のない出来事だと思い、防災について真剣に考えないなど、個人の意識や危機感の低さがあるのではないかと考えました。

そこで、多くの人に防災についての意識や危機感を持ってもらうための取組として、防災CMについて提案します。

**○海野雅心議員** CMの具体的な内容としては、最初に、雪まつりやミュンヘン・クリスマス市のような冬のイベントの楽しげな場面を流し、それが地震などの災害で、一転してパニックに陥ってしまうようなものと、インパクトがあるのではないかと考えました。また、札幌駅やテレビ塔など、札幌を代表するような建物が崩れ去ってしまう映像があると、より災害の悲惨さをイメージすることができると思います。

**○菅原考悟議員** そしてこのCMを、映画館で、映画の上映前に流すとよいのではないでしょうか。

なぜなら、テレビとは違い、チャンネルをかえられることもなく、迫力のある映像を流すことができるため、多くの人の印象に残るという効果が期待できるからです。

このようなCMがあると、多くの人が防災についての意識や危機感を持つきっかけになるのではないのでしょうか。

**○大城萩乃議員** また、職員の方との勉強会では、HUGという避難所運営のゲームを体験させてもらいました。HUGを通して、避難所の生活の大変さを感じるとともに、私たちも、できることは積極的に行う必要があると感じました。

そこで、「避難所で自分たちにできること」について提案します。

まず、自分たちにできることを、小中高生に分けて考えました。

小学生は避難所の掃除をする、中学生は避難所になる学校の案内をする、高校生は体が不自由な人や困っている人に声かけをするという役割分担を考えました。

**○吉川すず議員** なぜ、このような役割分担を考えたのかというと、小学生は、体が小さいので隅々まで掃除をすることができるため、中学生は、小学生よりも敬語が使える、避難所になる小学校のことをよく知っている人が多く、スムーズに学校の案内ができるため、高校生は、相手の気持ちを考えて、失礼のない言葉づかいで声かけをすることができるためです。

**○中村彩乃議員** 加えて、大人の人たちが物資運搬で忙しくしているときは、力のある中高生が手伝うという意見や、小学生を中心に、高齢者の話し相手になったり、歌を披露して場をなごませるという意見も出ました。

また、避難所の設営や見回りなど、子どもには難しいため、大人にやってほしいこともあります。避難所では、大人も子どもも役割分担をして、各自ができることを行うことが大切だと思いました。

**○福永遥議員** 冬に災害が起こると、寒さの影響で凍死してしまう人も出てくることがあると、職員の方から教えていただきました。

私たち子ども議員も含めて、たくさんの人たちが災害への危機感を持ち、いつかではなく、今から防災準備をしなければならないと思います。

以上で、モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の発表を終わります。

〔モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会子ども議員降壇〕

**○佐々木花鈴議長** ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

**○秋元克広市長** モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の皆さんから提案をいただきました。ありがとうございます。

防災に関する二つのご提案がありました。

一つは防災ＣＭを映画館で流してはどうかということと、もう一つは避難所で自分たちに行きやすいことについてのご提案でした。

一つ目の映画館での防災ＣＭの関係ですが、皆さんの提案の中にもありましたように、災害が起きたときに、避難所がどこにあるのか、いろいろなことを意外と知らない人が多いわけであります。

実際に、市民の方に災害に備えてどういう対策をしていますかという調査をしたところ、30%の人が特に何もしていないと答えています。つまり、非常に多くの方が、災害を意識しながらも、実際の行動はあまりとっていないということです。さらに、29歳以下の若い人に限ってみると、45%という半分近い人が特に何もしていないと答えており、特に若い世代の人たちに、防災の意識を持ってもらうことは非常に重要だと思います。

そういう意味では、映像を通じていろいろなことを伝えるというのは非常にわかりやすいですし、皆さんの提案にもあったように、映画館だと、テレビと違って集中して見えますので、より効果があるのではないかと考えて、非常によい提案だと思います。映画館では実際にいろいろなＣＭをやっていますので、防災も含めて検討したいと思います。

それから、二つ目の避難所の関係ですが、避難所運営ゲームの中で、高校生、中学生、小

学生それぞれが、自分たちにできることは何かという、役割を考えていただいたということは、大変すばらしいことだと思います。

地震や大きな災害のときに、市役所、消防、警察など行政の人たちが助けに行けるということは限られています。というのは、地震などが起きると、市役所も非常に混乱してしまいますので、被害があったところに、直ちに行けるというところは本当に限られます。そうすると、これは阪神・淡路大震災のときもそうですが、災害が起きたときは、まずは自分で自分の命を守ること、その次は周りの人たちと助け合って命を守ること、これは自助・共助と言いますけれども、こういったことが命を救うためにはとても重要だったということです。そういう意味では、自分のことを考えて行動していく、備えていくということはもちろんですが、災害が起きたときにはみんなで助け合うことが非常に重要になっていきますので、避難所でもそれぞれの役割と自分たちにできることを組み合わせて災害に備えていくということは、非常に重要だと思います。

先ほどのIt's more with B委員会の提案もそうでしたが、災害が起きたときのために、事前に備えをして考えることが一番重要でありますので、まず、家族の人も含めて、皆さんで話し合って役割を考えておいてほしいと思います。

それから、これも提案の中にもありましたが、困っている人がいるときに助けるというのはとても重要なことです。これは、災害のときばかりではなく、普段から、困っている人がいれば、自分たちは何ができるかを考えて行動してほしいと思いますし、そういう意識を皆さんが持てるよう、市役所でも、いろいろな場面を通じてこの考えを広げていきたいと思います。ご提案、ありがとうございます。

○佐々木花鈴議長 ありがとうございます。

続きまして、SEG WAY委員会の提案です。SEG WAY委員会の皆さん、よろしくお願いします。

〔SEG WAY委員会子ども議員登壇〕

### ③SEG WAY委員会

○小田島武尊議員 こんにちは。「SEG WAY」です。

私たちの委員会名は、「Saving（節約）」、「Eco（エコ）・Energy（エネルギー）」、「Green（緑）」のそれぞれの頭文字に、その方向に向かうという意味の「Way」を加えて、「SEG WAY」と名づけました。

この委員会名には、省エネなどを通して、札幌市が緑豊かなまちになってほしいという想いを込めています。



**○高橋一颯議員** 私たちの委員会では、「日々のエネルギーをどのように使い、安全で環境にやさしいエネルギーをどのように創りだしたらよいだろう？～限りある地球を未来に残すために～」という大きなテーマについて考えました。

環境局の職員の方との勉強会では、再生可能エネルギーの開発が進んでいることや高気密高断熱住宅の存在、札幌市が補助制度を設置していることなど、とても新鮮なお話を聞くことができました。

**○田中心斗議員** 一方で、職員の方がこんなこともおっしゃっていました。

「太陽光パネルの設置には費用がかかるため、なかなか個人の住宅では設置が進んでいない。どのように普及させていくか苦労している。」

そこで私たちは、省エネや再生可能エネルギーを普及させるためには、市民がもっと身近に、省エネなどに触れられたり、考えたりできる機会を増やすことが必要ではないかと考え、それを実現するための取り組みを二つ提案します。

**○京藤乃愛議員** まずは、新しいキャンペーンとして、「スローファースト（SLOW FIRST）」を展開していくことを提案します。これは「プレミアムフライデー」がモデルになっていて、毎月第2水曜日に、いわゆる都市生活から離れ、スローな時間を過ごすことを目的としたものです。

この「スローファースト」には、4つのキーワードがあります。「早く眠る」、「家族だんらん」、「星空」、「音」です。

**○高橋実生議員** まず、「早く眠る」についてです。人が早く眠るだけでなく、夜中も明るい札幌というまち全体が「眠るまち」になることで、エネルギーの削減につなげていきます。17時に退社・下校し、21時にはいったん消灯。これを目指します。

次に、「家族だんらん」についてです。家族そろって一つの部屋に集まったり、まとまった時間に入浴することでエネルギーの消費を抑えていきます。また、食事は地産地消を心がけること。きっといつもよりもすてきな食事になり、またこれも環境について考える機会となります。



**○高松杏都議員** そして、「星空」。「21時にはいったん消灯」することで、満天の星空を眺めることのできる、大都市・札幌を目指します。ここで補足しますと、「いったん」というのは15分間を想定しており、これは「札幌市全体」と考えたときの現実味を考慮した結果です。逆に言えば15分間は、札幌というまちは田舎のように暗くなり、星空を楽しむことができる時間となるということです。また、星空を楽しむことのできるスポット、という視点で自分のまちを知ることにもつながるはずです。

**○國井祐寧議員** 最後に、「音」です。もう普段の生活になじんでしまっている、いわゆる「騒音」から少し離れ、もっと身近な生活音を楽しむことのできる、そんな夜になればいいなと思います。21時から、騒音となり得る活動は自主規制。これはルールというよりも、「スローファースト」を通して自然と札幌市民の心の中に生まれてくるものであると願っています。

続いて、4月22日の「アースデイ」を含んだ1週間を、「エコ・ファースト強化週間」として、大通公園での大規模なPR活動を行うことを提案します。

既に札幌市は環境に関するさまざまなPRや取組を行っていますが、あまり市民に知られていないというのが現状です。それを解決しよう、というのが「エコ・ファースト強化週間」になります。

**○京藤凜議員** 私たちは、「五感で感じる」という見方で既存の活動をとらえ直し、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚それぞれにフォーカスしたPR活動が行われればいいのではないかと考えました。

例えばポスターは視覚、「騒音があるかないか」の聴き比べは聴覚、などです。詳しくは提案資料をご覧ください。

このように、楽しく想像力を膨らませながら提案内容を考えてきましたが、その中で、本当に身近なことが、見えてきました。

「電気をつけたまま寝ていないか」

「水を無駄に流していないか」

「スマホばかりで空を見つめられていないのではないか」

いま一度、普段の生活について考え直し、環境にやさしい行動を心がけていきたいと思います。以上、私たち「<sup>セグ</sup>SEG <sup>ウェイ</sup>WAY」からの提案とさせていただきます。

〔<sup>セグ</sup>SEG <sup>ウェイ</sup>WAY委員会子ども議員降壇〕

**○佐々木花鈴議長** ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。



**○秋元克広市長** SEG WAY委員会の皆さんから、環境に関して、一つはスローファーストの展開、もう一つはエコ・ファースト強化週間としてPRを進めたらどうかというお話をいただきました。

皆さんには、省エネルギーや、日々のエネルギーをどう使っていくのかという将来にわたって重要な視点を考えていただきましたことについて、まずもって感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。そして、その上で、市民の皆さんが身近で気軽にエネルギーを大切にしていける行動をとっていくためにはどうしたらよいかということで、皆さんに考えていただいたということは、非常に大きな意味を持っていると思います。非常に大切なことを気軽にできるか、すぐに行動に移せるかということが重要だと思うからです。

一つ目の提案の中に、早く寝るとか家族だんらんというお話がありました。家族だんらんでいるということは、特に冬場ですと、個別の部屋で暖房を使うよりは、一つの部屋で暖房を集中的に使うことによってエネルギー消費を抑えていくことにもなると思います。

それから、地産地消というお話もありました。

遠くでとれた物を食べると、物を運ぶためのエネルギーが使われますが、近くでとれた物を消費すると、エネルギーの消費を少なくしていくことにもつながるため、重要だと思います。そういう意味で、札幌は、積雪寒冷地で非常に寒い場所ですので、冬場のエネルギーをいかに使わないようにしていくかということが、エネルギーを無駄にしないということに大きくつながります。

そして、札幌にはあまり大きな工場はありませんので、普通の住宅あるいは事務所で使われるエネルギーを少なくしていくことが、札幌全体のエネルギー消費を少なくしていくことを考えるうえで重要だと思います。そういう意味で、家族をテーマに考えていただいたことは、エネルギーを削減していくことにもつながると思います。

また、星が見えるまちということですが、200万人も住んでいるまちで星がきれいに見えたら本当にすばらしいですね。そういう活動や運動をぜひ皆さんと一緒に広げていければと思います。

そして、二つ目の提案でありますエコ・ファースト強化週間ですが、皆さんに知っていただく、PRをしていくことが重要ですので、目で見て耳で聞いて感じるなど、五感に訴えるPRの仕方は非常に参考になりました。ぜひ、これからのPR活動の中で皆さんの提案を取り入れていきたいと思います。

皆さんが考えていただいたことについて、まずは自分で行動して、そしてそのことを多くの人に広げていただいて、多くの人がエネルギーについて考えるまちに皆さんと一緒にしていければと思います。ありがとうございます。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございます。

最後は、エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の提案です。エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会の皆さん、よろしくお願いします。

#### ④エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会

○國分咲楽砂議員 こんにちは。エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会です。

私たちの委員会名は、去年話題となった「逃げるは恥だが役に立つ」のドラマ名をもじったもので、エネルギー資源や、環境破壊などの問題を直視するのは辛いですが、エネルギーは私たちが生きていくうえでとても役に立つという意味が込められています。



○巽佑羽議員 私たちは、「限りある地球を未来に残すために、これから先、エネルギーをどのように使い、創り出したらよいか」について話し合いました。

職員さんとの勉強会では、札幌市が、太陽光発電の設置を補助するなど、再生可能エネルギーの利用拡大に向けた取組や、省エネ・節電・CO<sub>2</sub>削減の取組を行っていることを知りました。

○石井里美議員 しかし、今のままでは石油、石炭、天然ガスといったエネルギー資源がなくなることや、地球温暖化や環境破壊が進むことが課題としてあげられました。

未来の世界では、地球の環境を悪化させないために宇宙で発電をしたり、どこでもドアのような、エネルギーを使わずに一瞬でワープできるものがあつたらいいと思います。

けれどもそれはできないので、今、私たちにできることから始めることを提案します。

○林妃華議員 北海道の気候を生かして冬はみかんなどの果物や、キャベツ・白菜・大根などの野菜を雪の中に埋めて保存することや、二酸化炭素を吸収してくれる植物を家で育てること、また、省エネのために早寝早起きをすることや、再生可能エネルギーや次世代自動車について調べて家族に話すことです。子どもが興味を持つことで、それが家族に伝わり、大人もエネルギー問題などに取り組むようになっていきます。

○真部有紀議員 そして、さらに取組を進めるためには、私たち子どもと札幌市が協力していくことが大切だと思います。そこで、札幌市に協力してほしいことを提案します。

まず、次世代自動車を増やすことです。周囲の人に関心を持ってもらうために、小学校の社会の授業での地域調査や、中学校の総合の授業などで、電気自動車の充電ステーションマ

ップを作るといいと思います。また、乗り物については、公共交通機関のほうが自家用車よりエネルギー効率がよいので、公共交通機関の利用を呼びかける広報を行うべきだという意見も出ました。

続いて、再生可能エネルギーの拡大や、家庭での省エネを進めるために、子どもが興味を持ちやすい広報を行うべきだと考えました。

**○鈴木絢音議員** 具体的には、参考資料のように、某学生向け通信講座会社のダイレクトメールのような、テンポがよく環境についての取組がわかる、意外性のあるマンガをすることです。また、地下鉄に掲示されている某受験対策塾の広告のような、へえーと思えて意外性があり、主婦にも興味を持ってもらえるように具体的な金額などを提示したクイズを作成するという意見も出ました。そのほか、クイズの積み重ねで結果が出るチャートのようなゲームを作ることによいと思います。

さらに、CO<sub>2</sub>を吸収してくれる植物を増やすために、市民に植物の種を配布すれば、家庭菜園やグリーンカーテンを始めるきっかけになります。

このようにすれば、未来の地球は緑豊かで、人間が住みよい地球になると思います。

以上で、エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会の発表を終わります。

〔エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会子ども議員降壇〕

**○佐々木花鈴議長** ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

**○秋元克広市長** エネルギー、直視は辛いが役に立つ委員会の皆さん、提案をいただき、ありがとうございます。

皆さんからは、私たちの大切な地球を未来にしっかり残していくために、自分たちができること、そして札幌市としてやってほしいことについて提案をいただきました。

まず、エネルギーの問題ですが、エネルギーは、普段の生活の中で非常に大切なものです。一方で、資源の枯渇にも対応していかなければならないので、大きなテーマでありながら、できることから始めていこう、少しずつ積み重ねていこうということは非常に重要なことだと思います。

ご提案の中に、雪の利用という話がありました。

札幌市でも、例えば、雪のエネルギーを冷房に使う取組を行っています。皆さんもご存じかと思いますが、東区のエレ沼公園にあるガラスのピラミッドは、冬に雪をためて冷房の一部として使っています。また、円山動物園でも、雪のエネルギーを夏場の冷房に使っていますが、こういったことをもっともっと普及させていければと思います。

課題としては、雪を大量にためておく場所が必要になるということです。そういう場所を

きちんと確保できるようであれば、こういった雪の利用ができるわけで、これからもっともっと広げていきたいと思います。

それから、皆さんが主役となって自らできることとして、早寝早起きということがありました。また、先ほどのSEG WAY委員会の提案でも家族だんらんというお話もありましたが、家族でできることについて、皆さんが率先して呼びかけて提案してもらえればと思います。

そして、札幌市に協力してほしいこととして、次世代自動車の話がありました。

札幌市内で自動車からどれだけの二酸化炭素が出ているかというと、全体の排出量の20%です。つまり、自動車の二酸化炭素排出量を抑えていくことが、全体の排出量を抑えていくことにつながります。ですから、電気自動車や水素自動車のように、二酸化炭素を出さない自動車の普及にも力を入れていきたいと思います。また、水素を使った燃料電池自動車については、公用車の中にも導入してPRしていきたいと考えています。

そして、公共交通機関ですが、これは多くの人を一度に運んでいきますので、エネルギー効率が高いわけです。特に、冬は、雪がありますので、地下鉄などの公共交通機関を使っていただくことで、交通渋滞をなくすことにもつながっていきます。ぜひ皆さんから家族の人たちにできるだけ車を使わない生活を広めていただければと思いますし、札幌市としてもPRを進めていきたいと思います。

広報については、マンガなど、皆さんが興味を持つようなことをやるべきだというお話でしたが、そのとおりだと思います。それぞれの年代で興味を持つものが違いますので、それぞれの世代に合わせ、皆さんにずっと入っていくような広報の仕方も心がけていきたいと思っています。

皆さんからいただいたご提案については、市政の中でやれることがあればしっかりと反映していきたいと思いますし、皆さんができる行動を自らやっていただくと同時に、そのことを家族の皆さんやほかの皆さんにも伝えていただいて、この地球を守っていく行動に少しずつでも取り組んでいただければと思いますので、そのこともお願いしたいと思います。

ご提案をいただきまして、ありがとうございます。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございます。

以上で、各委員会の提案と答弁を終わります。

ここで、休憩をとりたいと思います。

**<休 憩>**

休憩 午後1時55分

再開 午後2時5分

## 6. 意見交換

○蝦名陸副議長 それでは、時間となりましたので、再開します。

ここからは、副議長が議事の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

これから、意見交換を行います。

まずは、子ども議員から札幌市への質問です。

質問がある人は挙手をして、指名されたら、最初に委員会名と自分の名前を言って質問してください。

それでは、質問がある方は挙手をお願いします。

It's more with B委員会の野村拓杜子ども議員。

○野村拓杜議員 It's more with B委員会の野村拓杜です。

東日本大震災のような大災害が起こったときに、どのような対策を考えていますか。



○蝦名陸副議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

中塚危機管理対策室長さん、お願いします。

○中塚宏隆危機管理対策室長 東日本大震災のような大災害が起こったときに、どんな対策を考えますかというご質問でした。



そういう大きな災害は、できれば起きないでほしいと思っておりますが、万が一起きた場合には、大きな混乱が生じると予想されます。また、困っている人たちがたくさん出てくると思います。ですから、札幌市は、この混乱をできるだけ少なくしたい、そして、困っている人たちをできるだけ早く助けるということを視点にして対策を行っていこうと考えています。

まず、大きな災害が起こった場合には、今、こちらにおります市長をトップとした特別な体制を立ち上げます。災害対策本部というのですが、市役所の全ての職場と、国や道など関係する大きな役所、そして民間の企業、あるいは自衛隊など、さまざまな組織の皆さんに参加していただいて、一丸となって災害に取り組むという仕組みをとります。この本部が中心となってさまざまな対策を進めていきますし、また、必要な情報を皆さんに提供したり、あるいは避難を呼びかけたりすることもここでやってまいります。

例えば、大きな災害のときは、まず被災した方々が大勢出るとお思いますので、市内各所に皆さんが避難できる避難所を開設いたします。ここでは、あらかじめ備えておいた水、食料あるいは寝袋など、必要なものを皆さんにお配りいたします。また、足りない場合は、国などと協力しながら、ほかから手に入れてお配りする手配も進めたいと思います。

それから、お年寄りや体が不自由な方のための特別な避難所も設けてまいります。また、



けがをした方あるいは救助が必要な方も出ると思いますが、消防、警察、そして必要に応じて自衛隊にも声をかけて、こういった方々の救出に出動してもらいます。もし、市内の組織だけでは足りない場合は、道外からも消防や自衛隊の部隊を派遣してもらうという仕組みもございます。また、市内の病院などにも協力してもらう手順になっております。

それから、災害のときには、水道あるいはガス、電気が止まってしまうことが予想されます。このため、関連する役所あるいは企業の皆さんに協力していただいて、すぐにその復旧に対応していただくことも考えております。さらには、道路が壊れたり、土砂崩れなども予想されますので、そういった場合には、市内の土木あるいは建設会社の皆さんに協力していただいて、すぐに元に戻す工事に取りかかっていただく手順にもなっております。

このような協力というのは、実は普段から協定という形で事前にお約束しておきまして、そういうときにすぐに対応してもらうことになっております。これは、市内の多くの会社あるいはお店などとも同様のお約束をしているところがありまして、万一の際には、いろいろな物資を出していただいたり、場所を貸してもらったりという協力をしてもらうような仕組みになっております。

このように、市役所では、災害に備えてさまざまな対策をとれる形にしておりますけれども、どんなに準備をしても、これで万全とは正直言いがたいです。先ほど、皆さんからのお話にもありましたように、被害を最小限にするためには、自分たちで自分たちのことを守る自助、あるいは、隣近所で助け合う共助というものが重要であることを皆さんに理解してもらうことが何よりも大切かと考えております。

災害のときには、消防の人も、市役所の人も、自衛隊の人も、すぐには現場に駆けつけることができません。その場にいらっしゃる市民の皆さん、あるいはここにいる皆さんの力が一番大切になります。皆さんには、大切な人や物を守るという気持ちを身につけてほしいと思いますし、そのためには、まずは自分の命を守るための正しい行動を早く身につけていただければと考えております。

以上でございます。

**○蝦名陸副議長** ありがとうございました。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

質問がある方は挙手してください。

モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の松本桃佳子ども議員、お願いします。

**○松本桃佳議員** モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の松本桃佳です。

危機管理対策室の職員の方は、災害が起きていないときはどんな仕事をしていますか。





○蝦名陸副議長 それでは、中塚危機管理対策室長さん、お願いします。

○中塚宏隆危機管理対策室長 災害のないとき、危機管理対策室は何をしているのかということで、なかなか厳しい質問かなという思いもしております。

災害というのは、起こらないのが一番ですが、いつ起こるかわかりません。ですから、起こらないときにそのための備えをしておくということが、実は一番大切なことでございます。私たちは、そんな仕事をしているということでございます。

例えば、先ほどもちょっとお話ししましたが、皆さんが避難する場所の確保、管理あるいは整備をしなければなりません。それから、食料や水、寝袋、燃料なども備えておく必要がありますが、古くなると換えなければなりません。

また、災害が起こったときのために、例えば、国や北海道という役所の組織、電気やガス、水道などを所管している民間の会社と協力できるようなルールづくりをしています。あるいは、協力関係を築くために、いろいろとお話やお願いをしていることが一番大切なところかと思います。これは、危機管理対策室だけではなくて、市役所の全ての部署で同様のことをやっておりますが、私どもが市役所全体のつながりや協力を進めていく仕事を担っています。

先ほどもお話ししたとおり、何よりも大切なのは、地域の皆さんに、災害のときの自助・共助や普段からの備え、心構えを考えていただくということです。そこで、私どもの職員が地域の皆さんのところに行って、防災についてお話しさせていただく出前講座、あるいはセミナーや研修会を企画・開催し、地域や会社の皆さんにいろいろと考えていただいたり、地域や会社で行う訓練や研修のお手伝いもしています。ですから、危機管理対策室に来ると、日頃、職員の半分は外に出ておりますので、あれ、こんなに人がいないのかなと驚かれるかもしれませんが、そういう職場になっています。

また、市民の皆さんに、そういったことをあらかじめ知っておいていただくために、いろいろなパンフレットを作ってもおります。また、住んでいるところにはこういう危険があるということを知っていただくために、ハザードマップという地図を作ったり、それから、皆さんはご存じかもしれませんが、小学生や中学生の子どものために、防災教育用の教材を作ったりもしています。このような形で、市民の皆さんに災害における備えやその対策について知っていただくための取組を行っております。

先ほど、災害に備えて特別な体制をとるというお話をしましたが、この体制がしっかり動くかどうかという訓練、研修も行っているところです。そのほかに、必要な情報を伝えるための機械や通信施設の管理も行っています。

最後にPRさせていただきたいのですが、災害についていろいろなことがわかる、札幌市防災アプリ「そなえ」というものを今年リリースいたしました。スマートフォンをお持ちの方はすぐにインストールできますが、これを使いますと、例えば、まちの中のどの場所においても、その近くの避難場所がどこにあるかということが、画面上に地図が出てわかります。

あるいは、一人一人のお子さんが家族へ自分の居場所をメール送信できるＳＯＳ機能もついております。

それから、現実の風景にアニメーションの画像を合成して、例えば、もし自分たちの住んでいるところで洪水が起きたら、ここまで水が上がってくることがわかるようなおもしろい機能もついております。ですから、遊び感覚で防災を知ることができると思っております。

このようなアプリがありますので、ぜひインストールしていただけるとありがたいと思いつつ、またそういったことを一つの話題として、家族皆さんで防災についてお話ししていただけると大変ありがたいと思います。

私からは、以上でございます。

**○蝦名陸副議長** ありがとうございます。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

SEG WAY委員会セグウェイの小田島武尊子ども議員。

**○小田島武尊議員** SEG WAY委員会セグウェイの小田島武尊です。

さっぽろキャンドルナイトのねらいと手ごたえを教えてください。また、札幌市内での再生可能エネルギー利用をどのように広めていくか、教えてください。



**○蝦名陸副議長** ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

三井環境局長さん、お願いします。

**○三井一敏環境局長** ご質問ありがとうございます。



質問は二つありました。

一つ目は、さっぽろキャンドルナイトのねらいと手ごたえについてということです。

さっぽろキャンドルナイトは、6月の夏至の日や7月のクールアース・デーを中心とした期間に、札幌市内の名所、例えば、時計台やテレビ塔のほか、ビルなどをライトダウンしたり、飲食店や自宅の電気を消してキャンドルの明かりで過ごしてもらったりすることで、環境や平和、世界の人々のことを考え思いやる、静かで豊かな時間を持ってもらうことを目的に実施しているものです。この取組は今年で14年目を迎え、一定程度市民の皆様にご存知いただき、徐々に定着してきているのではないかと考えております。今年は、115の企業や団体、飲食店等に参加をいただいております。今後より大きな取組になるよう、参加者の輪を広げていきたいと考えているところです。

先ほど、SEG WAY委員会セグウェイの皆さんには、4つのキーワードを提案してもらいました。それは、早く眠る、家族だんらん、星空、音でしたが、キャンドルナイトの取組は、まさにその

全ての要素を兼ね備えたもので、誰にでもでき、環境への意識や行動をより高めるきっかけになるものだと思います。このイベント期間中は、環境プラザや大通情報センターなどでキャンドルを無料で配布しておりますので、皆さんの家庭でもぜひキャンドルナイトを過ごしていただきたいなと思います。

そして、これは私からの提案になりますけれども、先ほど皆さんからスローファーストキャンペーンの発案がありました。例えば、毎月、皆さんのご家庭でキャンドルナイトをやってみるのはいかがでしょうか。皆さん方の行動からスローファースト運動が広がっていけば素晴らしいことだと思います。私たち環境局としても応援したいと思いますので、ぜひやってみてください。よろしくお願いします。

質問の二つ目は、市内の再生可能エネルギー利用をどのように広めていくかということでした。

再生可能エネルギーの利用を広めていくためには、市民や事業者の皆さんに、より一層、地球温暖化問題に興味と関心を持ってもらい、環境に優しい太陽光発電や木質ペレットストーブなどを実際に設置してもらうことが、何よりも重要だと考えております。

太陽光発電については、現在販売されているパネルと同じ大きさで倍近い発電ができる効率性のよいものの開発や、壁や床などにつけるタイプの太陽電池の研究なども行われています。こうした技術の開発が進むことで、今よりもいろいろなところで使われるようになることが期待されています。また、最近では、苫前町など北海道内の各地で風力発電や太陽光発電から水素をつくり、自動車の燃料として利用したり、家やビルなどの建物で使われる電気や熱をつくる燃料電池の実証実験が行われています。そして、近い将来には、北海道内の豊富な再生可能エネルギーからつくられた水素を札幌に運んで利用する時代が来ることも期待されています。

札幌市としては、再生可能エネルギーの利用を増やしていくために、これからも学校などの市役所関係の建物への導入や、家庭、事務所、ビルといったさまざまな建物への普及に向けたPR活動を続けて、再生可能エネルギーについての関心を高めていくとともに、補助金などの市民、企業への設備導入支援の取組を積極的に進めていきたいと考えています。

私からは以上です。

**○蝦名陸副議長** ありがとうございました。

次の質問に移りたいと思います。

エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の巽佑羽子ども議員。

**○巽佑羽議員** エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の巽佑羽です。

職員の方が、個人的に省エネのためにしていることは何ですか。

**○蝦名陸副議長** ただいまの質問について、回答いただきたいと思います。



三井環境局長さん、お願いします。

**○三井一敏環境局長** ご質問ありがとうございます。

職員が個人的に省エネのためにしていることについてというご質問でした。

私は、ほかの職員の方たちがどのように取り組んでいるか、詳しくはわかりませんので、私のことでお答えしたいと思います。

私個人としては、普通の大人のたちと比べて、特に自慢できるような省エネの取組をしているわけではありません。普段気をつけているのは、小まめにスイッチを切るとか、室温をあまり高くしないようにするというところくらいはちゃんとやっているつもりです。

でも、我が家では、省エネリーダーと言える私の奥さんが意識を高く持っているいろいろなことをしています。私の家は、建ててから25年が経ちまして、つい最近、リフォームを行いましたけれども、その際に、省エネ型の設備や家電への買い換えを積極的に進めました。このときも、奥さんがいろいろと調べて、できるだけ環境に優しいもの、つまりお財布に優しいものを選んでいました。

例えば、トイレは節水型のものに交換し、お風呂も浴槽を小さめにかえたり、キッチンに食器洗い乾燥機も設置して、家庭全体で使う水を少なくするようにしました。冷蔵庫も省エネ性能五つ星の冷蔵庫を選びましたし、給湯ボイラーも効率性の高いものに交換しました。また、ストーブも新型に交換しましたけれども、1個のストーブで基本的に2階建ての家を全部暖めるものにしております。私の奥さんは、今までよりもきっと安くなるから、電気代や水道料金の請求が楽しみだと言っていました。私も、無理したり我慢しなくても、省エネ型の設備や家電に交換することで、効率よくエネルギーを使えるようになることを実感しています。

でも、気をつけなければいけないのは、いくら省エネ型のものを入れても、それを使う人各々がちゃんと意識して使わなければ、効果的にはなりませんし、無駄も出てきます。そのことを忘れずに、私も、我が家の厳しい環境リーダーのもとでしっかりと省エネに取り組もうと思っています。

私からは以上です。

**○蝦名陸副議長** プライベートなことまでありがとうございました。

続いて、札幌市から子ども議員への質問です。

各委員会の提案やテーマについて、市役所の方で質問や感想、意見などのある方は挙手をして、指名されたら発言してください。

それでは、質問、意見などのある方は挙手をお願いします。

秋元市長さん、お願いします。

**○秋元克広市長** 先ほどは、皆さんからたくさんの提案をいただきまして、ありがとうございます。

います。

皆さんは、9月からいろいろな勉強をされて、担当職員からいろいろな話を聞いて、今、どういうことに取り組んでいるのか、そして、どういう課題があって、これからどうしていけばいいのかということの中で、自分たちができることをいろいろとやってみる、そして、それを広げていくという提案をいただきました。今回は、防災とエネルギーを考えるという二つの大きなテーマがありましたので、お答えいただくのは何人かだと思いますが、皆さん全員にお尋ねしたいと思います。

皆さんはこれまで、防災のことやエネルギーの消費のことを考えて、できることからやりましょうという提案をいただきました。そこで、この冬休みから、自分でこういうことをやってみよう、あるいは、家族と一緒に話し合って、こういうことをやると決めていますということがあれば教えてほしいと思います。

防災を担当された委員会の方からどなたかお一人、エネルギー・環境問題を担当された委員会の方からどなたかお一人、それぞれ指名して答えていただければありがたいと思いますので、副議長さん、よろしくお願いします。

**○蝦名陸副議長** ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いいたします。

まず、<sup>イッツ</sup> <sup>モア</sup> <sup>ウィズ</sup> <sup>ビー</sup> It's more with B委員会から、松田翔之祐子ども議員、お願いします。

**○松田翔之祐議員** <sup>イッツ</sup> <sup>モア</sup> <sup>ウィズ</sup> <sup>ビー</sup> It's more with B委員会の松田翔之祐です。

自分自身としては、冬休みから家族と話し合ってみたり、友達等とも話し合って、学校にいるときだけでなく、家または遊びに行っているときなど、どのように行動すべきかを考えていきたいと思っています。

また、アプリ等を入れたり、ネットで調べるなどして、自分自身の知識も今以上に増やしていけたらいいと思っています。

終わります。



**○蝦名陸副議長** ほかに、環境・エネルギーについて考えた子ども議員はどうでしょうか。

それでは、<sup>セグ</sup> <sup>ウェイ</sup> SEG WAY委員会の田中心斗子ども議員、お願いします。

**○田中心斗議員** <sup>セグ</sup> <sup>ウェイ</sup> SEG WAY委員会の田中心斗です。

冬休みからは、水道の出しっ放しをしないで水道をとめたり、節電をしたりする取組をしたいです。



**○蝦名陸副議長** ありがとうございます。

では、次の質問に移りたいと思います。

質問、意見などのある方はお願いします。



岸副市長さん、よろしくお願いいたします。

**○岸光右副市長** 副市長の岸でございます。



4つの委員会からの発表、提案を聞かせていただきました。本当に長時間かけて真剣に議論されて、最後はわかりやすく簡潔にまとめていただいたと思います。また、発表の仕方も本当に工夫されていたと思います。

私は、このわかりやすくということが本当に大事だと思っています。市役所の人言うことは難しい言葉を使っていてとてもわかりづらいとか、市役所から来る書類は小さい字がいっぱい書いてあって読んでいてもわからないということをよく言われますので、皆さん方の発表を聞きながら、わかりやすく相手に伝えることの大切さを再認識させてもらったと思っています。

それから、今回のSEG WAY委員会さんの発表の中で満天の星空という言葉が出てきましたが、本当にすてきな言葉だと思っています。私が子どものころ、50年以上前ですが、そのときの札幌は、まだまちの中の街路灯が少なくて、夜空を見上げると天の川が見えたことを、発表を聞きながら思い出していました。

そこで、SEG WAY委員会の方にご質問したいと思います。

スローファーストの取組をしようとしたときに、皆さんが早く寝るとか、だんらんをする、星空を見上げよう、あるいは音からちょっと離れようという取組をしようと思ったら、皆さん方も、テレビを見ないとか、ゲームをしないとか、スマホを触らないなど、皆さん方の行動も変えてもらうことになり、自分たちにとっても厳しい取組だと思いますが、委員会で議論しているときにはそういうお話が出ませんでしたか。また、もし実際にやろうとして、友達からそんなの嫌だよと言われたらどう説得するのかと思いましたので、そのことを質問させてもらいたいと思います。

**○蝦名陸副議長** では、SEG WAY委員会の高橋実生子ども議員、お願いします。

**○高橋実生議員** SEG WAY委員会の高橋実生です。

会議をしているときには、スマホとかテレビを見るからスローファーストにつながらないのではという話題はあまり出ませんでした。私が友達にすすめるときは、スマホとかテレビなどではなくて、たまには本を読んでみてと言います。星が明るければ、月明かりとかで本は読めると思うので、その中で本を読んで、ココアなどを飲んでゆっくりとした時間を過ごすのもいいのではないかと説得すると思います。



**○蝦名陸副議長** ありがとうございます。

ほかに、SEG WAY委員会からどうでしょうか。

京藤凜子ども議員、お願いします。

○京藤凜議員 SEG WAY委員会の京藤凜です。

実際に、自分は、テレビも見たいし、スマホもいじりたいですが、スローファーストが行われる日は月にたった1回の第2水曜日だけなので、その1日だけでも、札幌市全体で、みんなが自分のやりたいことを少し我慢して星空を見ることが、環境に対する興味、それが省エネにつながっていくと思うので、やっていきたいと思います。



自分は、学校の社会の授業中に、先生から子ども議会ってどんなことをするのと聞かれました。そのときに、自分の委員会は、スローファースト週間というものをつくったり、省エネにつなげることをやっているということを友達に言ったら、へえ、そうなんだとか、そういうものを見てみたいと関心を持ってくれる人がいました。そういう人たちが少しでも増えていったら、朱に交われれば赤くなるということで、周りのみんなもやっていくと思うので、一人一人に話して、みんなで行えるようにしていければいいなと思っています。

○蝦名陸副議長 ありがとうございます。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

長岡教育長さん、お願いいたします。

○長岡豊彦教育長 教育長の長岡でございます。



皆さん、課題を見つけて自分で考えて、それを表明することがしっかりできていたと思います。今日は、とても心強く思いながら見ておりました。

私からの質問は、防災と環境からちょっと離れます。

皆さんもテレビで見ていたかもしれませんが、先だって、全日本なわとびかつとび王選手権というものがありません。今日も清田緑小学校から一人仲間が来ておりますが、この大会で清田緑小学校が見事にナンバーワンになったところでございます。

そこで、皆さんがそれぞれの学校で、体力づくりについて、どんなことをやっているのかなということを二、三名の方に聞かせてもらいたいと思いますので、教えてください。よろしくをお願いいたします。

○蝦名陸副議長 これは、小・中・高だといいかもしれませんね。子ども議員、どなたかお願いします。

エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の林妃華子ども議員、お願いします。

○林妃華議員 エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の林妃華です。

私の小学校では、スポーツ委員会という委員会があって、月に何回か縄跳び検定や跳び箱検定などをして体力向上を目指しています。



○蝦名陸副議長 ありがとうございます。

次は、できれば中学生の方をお願いします。

エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の鈴木絢音子ども議員、お願いします。

○鈴木絢音議員 エネルギー、直視は辛いですが役に立つ委員会の鈴木絢音です。

私の学校では、球技大会と陸上競技記録会が両方あって、しかも学年レクでも運動をしていて、スポーツの行事がたくさんあります。特に、球技系のスポーツをいっぱいして体力を向上させています。



○蝦名陸副議長 最後に、少ないですが、高校生でどなたかをお願いします。

It's more with B委員会の松田翔之祐子ども議員、お願いします。

○松田翔之祐議員 It's more with B委員会の松田翔之祐です。

自分の学校は、部活校ということもあるので、強化部などがやっている基本的な体力トレーニングなどを、普段の体育の時間に部活に入っていない人たちも一緒にやるので、全体的な体力づくりは体育の時間で全て補えていると思います。

終わります。

○蝦名陸副議長 もし、ほかに、これはどこの学校もやっていないだろうという取組があればお願いします。

モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の松本桃佳子ども議員、お願いします。

○松本桃佳議員 モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の松本桃佳です。

私の学校では、週に一度、近くの山を一周走るという体力づくりをしています。

○蝦名陸副議長 ありがとうございます。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

可児子ども未来局長さん、よろしくお願いいたします。

**○可児敏章子ども未来局長** 私からは、防災に関する提案をしていただいた委員会の皆さんにお聞きしたいと思います。



It's more with B 委員会の皆さん方は、学校で防災教育を充実させたほうがいいのではないかというご提案でしたが、本当に子どもたちからの提案とは思えないと驚きました。今の子どもたちは、学校でたくさん授業があつて非常に大変だとお聞きしていましたので、そういう状況にあつても、このような提案ができるのは本当に素晴らしいことで、大人たちは見習うべきなのではないかと思いました。

また、モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の皆さんは、防災CMについて提案をされておりました。私も、大分前になりますが、広報課というところで広報誌や広報番組をつくる仕事をしておりました。そういったことから、皆さん方の提案は本当に伝わる広報とはどういうものかということをしっかり考えた、実に的を射た提案だったのではないかと感じております。

映画館でCMを流したらいいのではないかということも、テレビとは違ってチャンネルを変えることはないので、迫力ある映像を流すことができ、多くの人に印象を残すことができる、まさに大手広告代理店の提案ではないかと思えるものだと思います。

そういったことで、印象に残すということに関してご質問いたします。

今回、皆さん方は、子ども議会を通じて防災についていろいろなことを学んだのではないかと思います。その中で一番印象に残っていること、心に残っていることはどんなことを教えてください。よろしくお願いいたします。

**○蝦名陸副議長** ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いいたします。

モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の遠藤朱莉子ども議員、お願いします。

**○遠藤朱莉議員** モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会の遠藤朱莉です。

私は、最初の委員会で、危機管理対策室の方から避難所の物資状況について教えていただいたときに、毛布などがとても少なく、食料も全員が安心して食べられるようではなかったので、とても驚きました。



**○蝦名陸副議長** ありがとうございます。

ほかの子ども議員はどうでしょうか。

It's more with B 委員会の野村拓杜子ども議員、お願いします。

**○野村拓杜議員** It's more with B 委員会の野村拓杜です。

僕は、HUG体験で、避難所にいろいろな問題があるということが一番心に残りました。

○蝦名陸副議長　ありがとうございました。

それでは、以上で意見交換を終了いたします。

ここで、議事の進行を議長に交代します。

## 7. 平成29年度札幌市子ども議会提案書手交

○佐々木花鈴議長　続きまして、子ども議会提案書をIt's more with B委員会の猿倉花凜子ども議員から秋元市長さんにお渡しいたします。

秋元市長さんと猿倉子ども議員は、前に出てきてください。

〔平成29年度札幌市子ども議会提案書手交〕



○佐々木花鈴議長　秋元市長さん、猿倉子ども議員、ありがとうございました。

## 8. 札幌市長挨拶

○佐々木花鈴議長　秋元市長さん、本日は、長時間にわたり、いろいろと丁寧にお答えいただき、ありがとうございました。

最後に、秋元市長さんからご挨拶をいただきます。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

○秋元克広市長　皆さん、多くの提案をいただきまして、ありがとうございました。

非常によく勉強されて、そして、現状や課題、これからどうしていったらいいのかということをよく考えて、仲間で話し合ってここまで提言をまとめていただいたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

また、いろいろな話を聞いたり体験をされたと思いますが、例えばHUGという避難所運営ゲームを体験してみて、こういったところが足りないのではないかとということを体験に基



づいて提案していただいたことは、本当に重要なことだと思います。それだけに、非常に現実的で、エネルギーや環境の問題についても、自分たちができることから輪を広げていこうということで、本当に大切な提案をしてもらったと思います。先ほど答弁をさせていただいたように、皆さんの提言を市役所の仕事の中にしっかりと取り入れていきたいと思っています。

これまででも、毎年、この子ども議会で提案いただいたことは、それこそできることから市役所の仕事の中に取り入れさせていただいております。例えば、去年の子ども議会では、環境を守るための誓いという提案をしていただきました。

今、札幌市の環境基本計画というものを作ろうとしていますが、この中で、去年、皆さんからいただいた提案に基づき、「地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～子ども行動編（さっぽろエコ子ども14の誓い）」というものを市民の行動指針として位置づけようということで、計画の中に入れさせてもらいました。このような形で、皆さんからの提案を具体的に市役所の仕事の中に取り入れていきたいと思っています。

そして、これは私からのお願いでもあります。皆さんができることを一つでも取り組んでいただきたいと思います。先ほども、意見交換の中で、テレビやスマホを見たいけれども、1日だけであれば我慢できますというお話がありましたが、そういうことが大事だと思います。積み重ねていくことで、1人が2人になり、2人が3人になりと広がっていくことが大事だと思いますので、皆さん方も、自分ができることを友達あるいは家族の皆さんに伝えて、広げていってもらいたいと思います。そして、月に1日でも、電気を消して早く寝るといった行動を、みんながとっていただければいいかなと思います。私も、今日は早く帰って寝ようかなと思っています。

そのようなことで、非常に多くの提案をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。そして、議会を取りまとめていただいた議長さん、副議長さん、また、この子ども議会のサポートしていただいたサポーターの皆さんに改めて感謝を申し上げて、私のお礼の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございました。

今、秋元市長さんから、子ども議会の提案を札幌のまちづくりに生かしていただける、また、生かしていただいているとお聞きして、とてもうれしく思っています。

秋元市長さん、そして職員の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

## **9. 札幌市議会副議長講評**

**○佐々木花鈴議長** 続きまして、市議会の三宅副議長さんから、本日の子ども議会の感想をいただきたいと思っています。

三宅副議長さん、よろしくお願いします。

○三宅由美札幌市議会副議長 ただいまご紹介いただきました札幌市議会副議長の三宅でございます。



議員の皆様、お疲れさまでした。そして、貴重なご提言をありがとうございます。

私は、まず、皆さんの発表を伺いまして、委員会の名称に一番心を引かれたところでございます。最初は何のことだかわからなかったのですが、今日、皆さんからどうしてこういう名前をつけたかを伺って初めてわかり、なかなかいい名称だなと思ったところです。これを決めるに当たっては、小学5年生から高校生まで、本当に幅広い年齢の皆さんが十分な意見を戦わせながら、皆さんでこの名前を考えたのだと思っております。

そして、防災についてですが、今、道東沖にマグニチュード9クラスの大きな地震が来るのではないかということが、新聞紙上で大きく取り上げられております。そういった中で、防災について、普段からみんながどのように意識しながら暮らしていくのかということは非常に重要なテーマだと考えました。

二つの委員会が、防災について発表されました。It's <sup>イツ</sup> more <sup>モア</sup> with <sup>ウイズ</sup> B <sup>ビー</sup>委員会の提案の中で、家族で話し合うことの重要性というお話がありましたが、災害が起きたときにはみんながどう行動するのかということや家族の中できちんと話し合うことは、非常に重要だと思います。東日本大震災のときに、お母さんやお父さんあるいは子どもが家族を求めてどれだけさまよい歩いたか、そういうことを目の当たりにして、これは非常に辛いことだな思ったところです。普段、家族と話し合う機会があまりないのではないかとということも想像されますが、これは大事なことから、しっかりと話し合っていきたいと思います。

それから、もう一つ、防災教育改革の提案もございました。

防災訓練をしても、真剣に取り組んでいないのではないかとと思われる仲間がいるということでしたが、単なる他人事と受けとめずに、自分の問題として、こういうときはどうするのだろうという想像力をめぐらしながら訓練に取り組んでいただきたいと思います。今、防災訓練は、連合町内会ごとに毎年しっかりと行われておりますので、そういうことにも着目していただきたいと思っております。

また、備蓄についてですが、私は家庭内の備蓄が非常に大事だと思っております。ライフラインあるいは道路などが寸断されて物資がなかなか届かないという現状もあります。ですから、家庭の中で、3日分ぐらいはみんなが食べていけるレトルト食品や缶詰、乾麺などの食料を備蓄していくことは重要だと思います。普段から家族の方と話し合って、どんな食べ物が好きかなどの意見も交わしながら、家庭内備蓄にもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

私がこう考えるようになったのは東日本大震災のときですが、地域の避難所にみんなが食べ物を持ち寄り、みんなで分かち合って食べたということがありました。そして、食料が届かなくても何とかみんなで助け合って生き延びることができたというテレビ放映がありまし

て、それが強く焼きついております。

次に、モシモ防災、内から見るか？外から見るか？委員会から、防災コマーシャルはインパクトがないというお話がありました。確かに、札幌市でつくっている啓発用のポスターなどは、あまりインパクトがないと思っております。ですから、こういうところに登場するのが皆さんだと思っております。インパクトのあるこんなポスターがあったらいいなということもどんどん提言していただきたいと思います。

それから、HUGも体験したということでした。小中高生のそれぞれの役割分担が発表されておりましたが、みんなの意見をきちんと取り入れながらつくった対策なのだと感銘したところでございます。また、大人は、被災した自分の家の後片づけや物資の運搬など、役割がたくさんあります。小さい子の面倒を見る、あるいは遊んであげるなどの活動も必要ではないかと思えます。

次に、SEG WAY委員会ですが、大変すばらしい提案をいただきました。スローファーストということで、早寝をする、家族とだんらんする、星空を見上げる、音は極力出さないようにするというキーワードがありましたが、この早寝をするというのは特に私に突きつけられていることだなと思えます。皆さんの提案に沿うような生活もしていきたいと思えます。また、この大都会の札幌で、満天の星空が見える暗さを維持することも大事だと思っております。月1回のスローファーストのような取組も必要だと思っております。キャンドルナイトをさらに広げ、定着させる活動が札幌市にとっても必要だと思っております。

それから、エコ・ファースト強化週間ですが、これは確かに大事なことです。自分たちの生活に無駄がないか、もし電気がなかったらどうするのかといったことは、やはり家族の話し合いが大切だと思っております。おじいさんやおばあさんから昔の暮らしを聞いてみることも大事なのではないのでしょうか。時間がないために、つい便利さに流されてしまうという生活の見直しが本当に必要だと思えます。都市生活がさらに豊かになるような提案だったと思えます。

最後に、エネルギー、直視は辛い役に立つ委員会です。

この委員会から次世代自動車のお話がありましたが、今後、充電ステーションマップなどを作っていくことは大変重要なことだと思っております。

CO<sub>2</sub>排出量は車が20%を占めるというお話がありましたが、民生部門、つまり会社や家庭で暖房あるいは照明として使うCO<sub>2</sub>排出量が90%近くあるというのが札幌市の現状であります。一人一人が節電を心がけることによって、発電所一つ分ぐらいの効果が生まれてくるのではないかとと思っております。

次に、雪利用あるいは公共交通利用の呼びかけについてですが、特に公共交通利用の呼びかけはなかなか進んでいきませんが、CO<sub>2</sub>削減のためにも、また、札幌市が運営する高速電車あるいは路面電車などの収益をより上げることができるよう、どうかこの利用をご家族の方や周りの方にも呼びかけていただきたいと思っております。

全体を通して、やはり一番のキーワードは家族だんらんの時間だと感じました。おじいさ

ん、おばあさんはこの時間がとれると思いますが、お父さん、お母さんがだんらんの時間を確保できるかということが課題だと思っております。今、働き方改革が進んでおりますが、このことも大事にしていかなければなりません。

また、皆さんに言いたいことは、私の子どものことでもあります、話しかけようとする、スマホをいじっていて、なかなか話に乗ってこないことがあります。おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんの体験は生きる知恵でもありますので、そんなにうるさがらずに聞いていただきたいと思います。

最後に、子ども議員の皆さんは、女性の割合が非常に高いということが心強いところでございます。今、秋元市長は、女性が活躍できる札幌市ということで女性応援会議などをつくっておりますが、議員になる女性が少ないことは本当に課題です。札幌市議会には68人中16人、約25%が女性議員で、政令市の中でもトップクラスを保つぐらい女性議員が多いのですが、皆さんの中からも議員になってやろうという女性の方が出てくれることを願いまして、講評とさせていただきます。

本当にご苦労さまです。また、ありがとうございました。

**○佐々木花鈴議長** ありがとうございました。

今、三宅副議長さんからお褒めの言葉をいただき、とてもうれしく思います。

三宅副議長さん、ありがとうございました。

## 10. 閉 会

**○佐々木花鈴議長** 皆さん、本日はお疲れさまでした。

皆さんは、子ども議会の活動を通じて、何か得たもの、感じたことなどはありましたか。

初めて会う人とさまざまなことについて話し合うこと、大勢の前で発表すること、どれもなかなか経験することのできないことです。今回経験してきたことは、今後の皆さんの生活の中で必ず役立つと思います。また、今回の活動が、子ども議員の皆さんが札幌市のまちづくりについて考える機会になればうれしいです。

この先もずっと子ども議会が開催され、活発な意見交換が行われることを願います。そして、その中で発言されたことが札幌市のまちづくりに生かされることを期待します。

最後になりますが、議論の中心になってくれた中高生、それを支えてくれたサポーターの方、昼食の準備や送迎など子ども議会の活動に協力してくださった保護者の方、ありがとうございました。また来年、ここで会いましょう。

それでは、これをもちまして平成29年度札幌市子ども議会を閉会します。

皆さん、ありがとうございました。

午後3時05分閉会

